

@幸せな贈り物

失敗も 美しい理由 3つ

だまされないでください。失敗は、はたして毒なのでしょうか、薬なのでしょうか。失敗が時には人間を放棄という極端な路地へ推し進めることがあります。成功という近道を提供したりもします。いつか読んだ文の中に「Impossible という単語の意味が何か分かりますか？」という質問を見つけました。そこで、言われている意味に、膝をポンとたたきました。本来「impossible」という単語は「不可能な」という意味です。ところが、その人はこのように解釈していました。「impossible とは、‘I’m possible.’ ということば短縮語だ」すなわち、「私は可能だ」ということです。このようによく見れば、失敗が失敗でなく、また他の可能性のはじまりであることを知ることができます。

失敗によって新しい人生を始めるようになった、一つのエピソードがあります。肢体不自由者でアメリカ東部のボルティモアにある世界最高の病院であるジョーンズホプキンス病院のリハビリ医学と首席専門医であるドクター、リ・スンボク氏に関する本を読みました。移民1.5世で、祖国の大韓民国に対する愛と愛国心、そして親に対する孝心と家族愛などが動機になって、幼い時から体操をするようになりました。血を流すほどの努力の結果、嘱望される選手としての夢を育てながら、夢にまで描いた祖国大韓民国のオリンピック体操代表選手としての栄光を控えて練習している間、不意の事故で肢体不自由者になったのですが、その逆境を勝ち抜きながら、結局は、体操でなく、また他の人生のオリンピック代表選手である医師への道に挑戦して、その夢をかなえるようになります。彼が失敗を踏んでまことの勇気を得て、新しい成功の道に挑戦するようになった背後には、出会いの祝福がありました。彼が車椅子に乗ってニューヨーク大学に通っている間、試験期間のキャンパスで忙しい彼の車椅子と止めた人がいました。その学生は、ナビゲーター宣教会のある伝道者でした。「お忙しいようですが、しばらくお話をしたいのですが、とても重要な話です」「私にはあなたにお分かちしたいことがあります。それを聞いたら、あなたの人生が変わることができます」「あなたに神様がだれであって、イエス様がどんな方なのかとても簡単に説明してあげましょう」1987年4月27日、ひとりの伝道者を通して福音を聞いて、理解して受け入れるようになって、彼は生まれ変わるようになったと、その出会いを記録していました。聖書にも、失敗のためにむしろ成功の座で尊く用いられるようになった成功者の証言が出てきます。旧約時代最高の預言者だったイザヤは、自らこのように告白しました。「ああ。私は、もうだ

めた。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」(イザヤ6:5) 最高の力の預言者と呼ばれたエリヤは、神様の前にこのように祈りました。「自分は荒野へ一日の道のりを入れて行った。彼は、えにしだの木の陰にすわり、自分の死を願って言った。『主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。』」(1列王19:4) イスラエルの最高の王だったダビデにも、そのような時期がありました。「しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそしり、民のさげすみです。」(詩篇22:6) 最高の伝道者だったパウロも、一時このように告白しました。「私はその罪人のかしらです。」(1テモテ1:15) しかし、彼らの失敗は神様が備えられた最高の成功の座への新しいはじまりで、その答えを受けて味わうようになりました。

地上最高の発明家と呼ばれるエジソンは、3万回を越える失敗を経験して、彼の実験室が火事になったとき、このように告白しました。「神様、すべての失敗を持っていってくださってありがとうございます」失敗は、自分を検証して、自分に合うことを探すのに必ず必要な過程でもあります。

ですから、今日の失敗も美しい理由3つは次のとおりです。最初に、今日の失敗は明日の成功を考えるようにさせます。言い換えれば、今日の失敗は明日の成功のための希望のひもを握らせます。二つ目、今日の失敗は、より大きい失敗を防ぐ道具になったりもします。三つ目、失敗を今日することが人生全体において見たとき、最も得になります。聖書には、最高の失敗の中ですべての人間に最高の成功の門を開けてくださった事件があります。

失敗を失敗させた十字架のパラドックス

Paradox もしかして、メル・ギブソンが監督をして主演した映画〈パッション〉(Passion of The Christ) を見たことがありますか。イエス様が十字架にかかって最後の苦しみにあいながら「イエスは大声で、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と叫ばれた。これは、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」と泣き叫ばれたとき、その後で微笑を浮かべていたサタンの姿を覚

えていますか。サタンは、イエス様の十字架の死の前に自分が勝利したと微笑んだのですが、その微笑は、イエス様の最後の告白と復活によって、こっぴみじんに崩れてしまいました。「完了した」(ヨハネ19:30) すべての人間のすべての問題を解決した十字架の死と復活、それは、すべての人間に救いを贈り物でくださる神様の最後の勝利の宣言でした。その驚くべきどんでん返しのドラマのはじまりと終わりはこのようです。

聖書には、本来の人間は永遠な幸せを味わいながら生きるように創造されたと言われています。しかし、今日の人間の現実はそうではありません。私も知らない、隠されている苦しみと失敗の中に生きています。そこには、人間が知らない根本的な原因があります。聖書は、神様とともにいた人間が、サタンの誘惑を受けて神様を離れた以後、人間は滅ぼす者であるサタンに捕われて、奴隷の役割をするようになり、目に見えない霊的問題とともに精神、肉体、家庭、子ども、来世問題に苦しめられて永遠な失敗を味わうようになったとあかししています。ところで、さらに深刻な問題は、このサタンがもたらした問題は、人には解決できないという事実です。それゆえ、神様は人間が受ける苦しみとのろい、失敗を解決するために、キリストを送ってくださいました。キリストが来られて、人生を苦しみと失敗へ推し進めるサタンのしわざを打ちこわされて、のろいと災いを呼び込んだ罪から人間を解放して、苦しみの中でさまよう人生に神様に会える道を開いてくださいました。人間の苦しみのすべての原因を解決されたのです。その証拠が、十字架の死と復活の現場です。だれでもキリスト・イエスを信じる者は、すべての苦しみと失敗から自由を得るようになります。これ以上、今日の失敗の中に留まらなくても良い、新しい人生が始まるようになります。もし、生活の中でまた再び苦しみと失敗がやってくるとしても、イエス様がそれまでも担って、より良い計画を成し遂げられると約束してくださいました。その祝福のはじまりが、イエス様が私のたましいと生活に、主人として入ってこられることです。

「主イエスを信じれば救われます。あなたは大切な人です。」

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、
救いを受ける私たちには、神の力です。(1コリント1:16)

なぜ神様は十戒を与えられたのでしょうか

神様のみことばである聖書は、人間の成功した生活についてこのように語っています。「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈りませぬ。」(Ⅲヨハネ 1:2) いくら名誉があつて、財産が多く、成功しても、いのちを失えば、なんにもならないと語っています。本来の人間は、神様とともにいながら、すべての祝福を味わう幸せな存在でした。魚は水の中に、木は根を地中におろしているとき、いのちと幸せがあるように。ところが、目に見えない悪い霊的存在であるサタン(悪魔)の誘惑に負けて神様を離れる罪を犯すようになりました。(ローマ 3:23、創世記 3:1~6) その結果、すべての人間は自分も知らない間にサタン(悪魔)の奴隷になり(ヨハネ 8:44) サタンがもたらすのろいと災いと苦しみと死の恐怖に苦しめられながら、運命と生年月日による運勢に縛られるようになりました。山田さんの家で生まれた子どもの姓が、自然に山田さんになるように、最初の間であるアダムとエバが罪を犯した以後に、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、神様を知らない死んだたましいになりました(詩篇 14)。サタンは今でも人間を不幸と滅びの中に引っ張っていています。これこそが、人間を不幸にさせる隠された霊的問題です。このような人間の根本的な霊的背景を知らなければ、理解できない不幸が繰り返されるようになります。この問題を解決した福音を悟るようになるために、神様は十戒と律法をくださいました。十戒の序文である出エジプト記 20 章 1~2 節を見れば「それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。『わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。』」と言われました。なぜ神様はヨセフをエジプトに奴隷に送られたのでしょうか。エジプトを生かすために確実な福音を持ったヨセフを派遣されたのです。人間が理解できない霊的問題を解決する道は福音しかないためです。聖書はなぜ時代ごとに福音を強調しているのでしょうか。福音を語らなければ、人々は時代を問わず奴隷生活を送るようになります。現在も数多くの人がお金の奴隷、性の奴隷、ゲームの奴隷、麻薬の奴隷、あらゆる中毒の奴隷になって生きていっているでしょう。これがサタンの戦略なのです。だれが自分の人生がほろびることにわざわざ中毒になるのでしょうか。日本をはじめとする先進国が、とても便利な生活を味わっているのに、なぜ自殺して、もう生きていられないというわめきは大きくなって行くのでしょうか。私達を知ることができずにいる罪の権威、のろいの権威、サタンの権威、地獄の権威は、どんなものによっても解決できないのです。その解決策に案内するのが、十戒と律法をくださった神様の目的です。

「こうして、律法は私たちがキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。」

(ガラテヤ人への手紙 3:24)

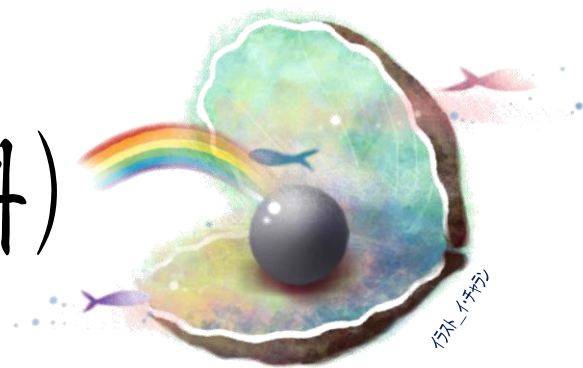
神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

まことのただ (無料)



ひとことで、世の中にタダ（無料）はない。それでも、人々はタダ（無料）を願う。努力の結果で得られる実の甘いことよりは、苦労や努力なしで得られる物や価値に心を寄せている。普通、無償で提供されていることには、その無償を成し遂げるまでのだれかの犠牲が入っている。韓国が朝鮮戦争以後に難しかった時期に、友好国から援助を受けたが、そのうちに無償援助というものもあった。それこそ、タダ（無料）で使える物やお金だった。ところで、その無償は貧しかった韓国の人にはタダ（無料）だったのか分からないが、友好国の税金や募金による結果であった。その国の人々の人知れぬ苦労があったので、韓国の人たちはそれをタダ（無料）のように使った。もう経済が成長した韓国は、これまで知らずにタダ（無料）をたくさん受けたので、タダ（無料）でそれを返さなければならぬ時刻表がきた。

ある日、インド宣教部に人のよさそうな漁師が悲しい顔をして訪ねてきた。しばらくぼんやりと窓の外だけ見つめていたこの漁師の理由は、聞いただけでもかわいそうだった。はじめはなにか助けてくれという要請をしにきたと思って、どのように助けられるかと考えながら、その漁師の話を聞いた。その人の息子は一緒に海の中に潜水して、海草類を探っていたという。家族の生計のためのその仕事は、非常に疲れてだるくて難しいことだったが、毎日毎日、食べて生きなければならない彼らには避けられないことだった。息を止めて水の中に入って魚介類を取る時は、いつも欲を捨てて、できる範囲でだけするという慣習がある。しかし、ときどき水中に見つけた貝をのがしてしまえば、後にはその場を探せない場合がたびたびあるので、欲張る場合があるということだった。その日、良い天気では暖かく、潜水しやすい日だった。一番の潜水が終わった後、しばらく休んで二回目潜水が始まって少し後、息子が水に浮び上がって来ないのだった。急いで息子の紐を引っ張り上げたら、息子がそこで死んで上がってきた。彼の手には彼自身も見ることがない大きなブラ

ックパール貝が捕えられていた。息子はその巨大な貝を見て、たぶん欲張ったのだろう。息子はしてはいけない選択をして、ブラックパールは手に入れたが、彼のいのちはなくしてしまったのだ。生活のための海で息子を失った父は、その真珠を売って、人生に益を得ることはできないと思って、息子が時々出て喜んでいたインド宣教部に、その真珠を持ってきたのだった。宣教部では、タダ（無料）で真珠を得たが、その真珠はひとつのいのちと対等の交換をした天下より大事な価値を持ったものだった。人間の救いのための福音は、この世のだれにでも、それこそ無償で提供されている、完全にタダ（無料）のものだ。だれでもイエスがキリストだと信じることができて受け入れるならば、その人はその時すぐに神様の子どもになる祝福を味わう。ある人は、このようにやさしくて安い、いやタダ（無料）の福音なので、真実性に欠けるとも言う。それは本当にタダ（無料）が持った属性を知らないためだ。もし息子を失った漁師に、宣教部で私たちが申し訳ないから少しでもお礼を出すとさえ言えば、そのお父さんは怒っただろう。まことのタダ（無料）は、値段を付けることができないときに可能だ。人間の罪が途方もなく大きくて重大だが、それを値段で支払おうとしたら、地球上のどんな金持ちも、その値段を支払うには足りない。したがって、神様はイエスの血によって罪の値段を払って、その結果は人間にタダ（無料）で、無償で救いを提供するのだ。タダ（無料）を得る者は、ある程度のずうずうしさが必要だ。タダ（無料）で救いを得る者にも、こいうずうずうしさが必要だが、私たちはそれを信仰と言う。まことのタダ（無料）を味わってみることを願う。申し訳なく思わずタダ（無料）を願う、その信仰を祝福する。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ